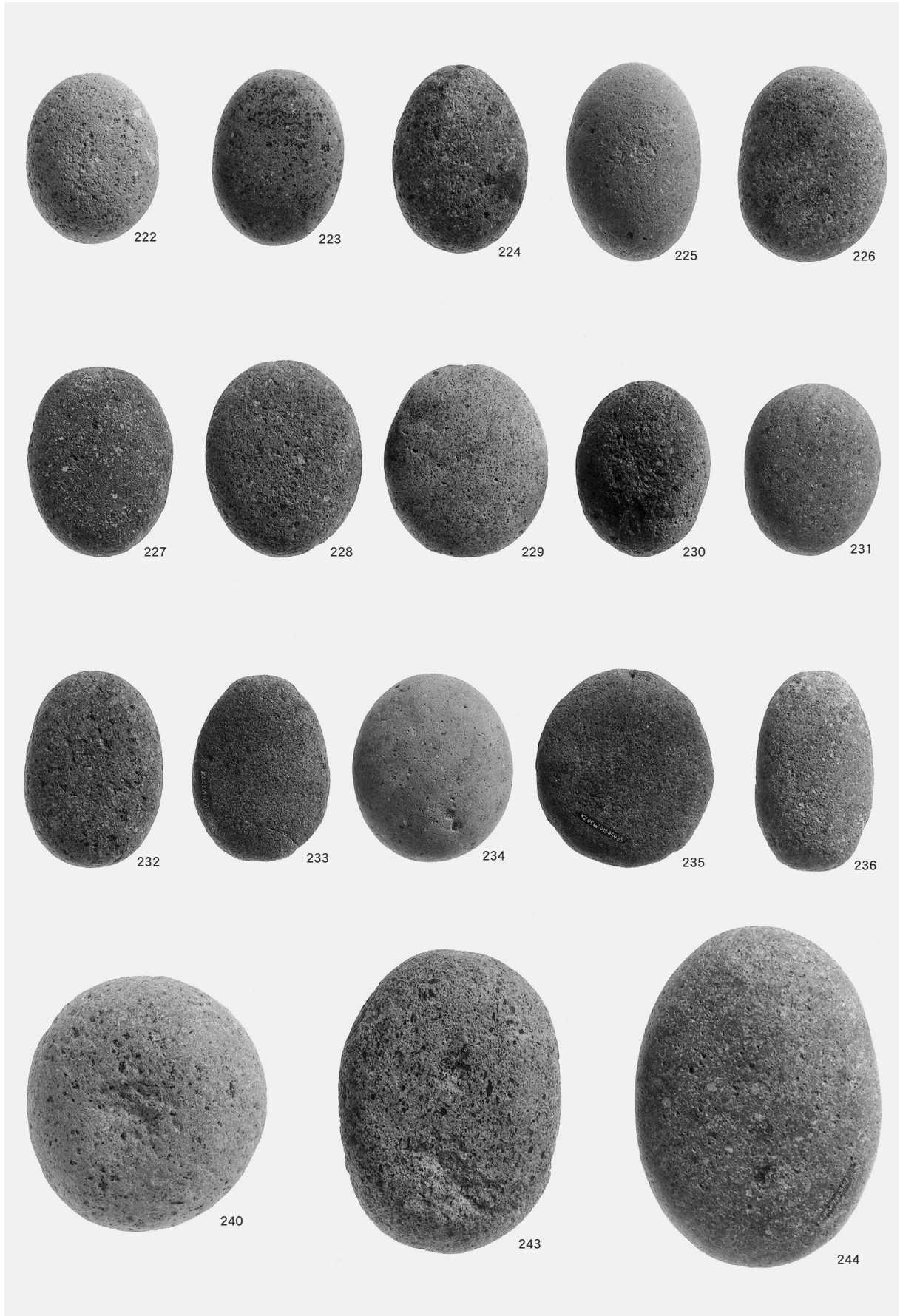
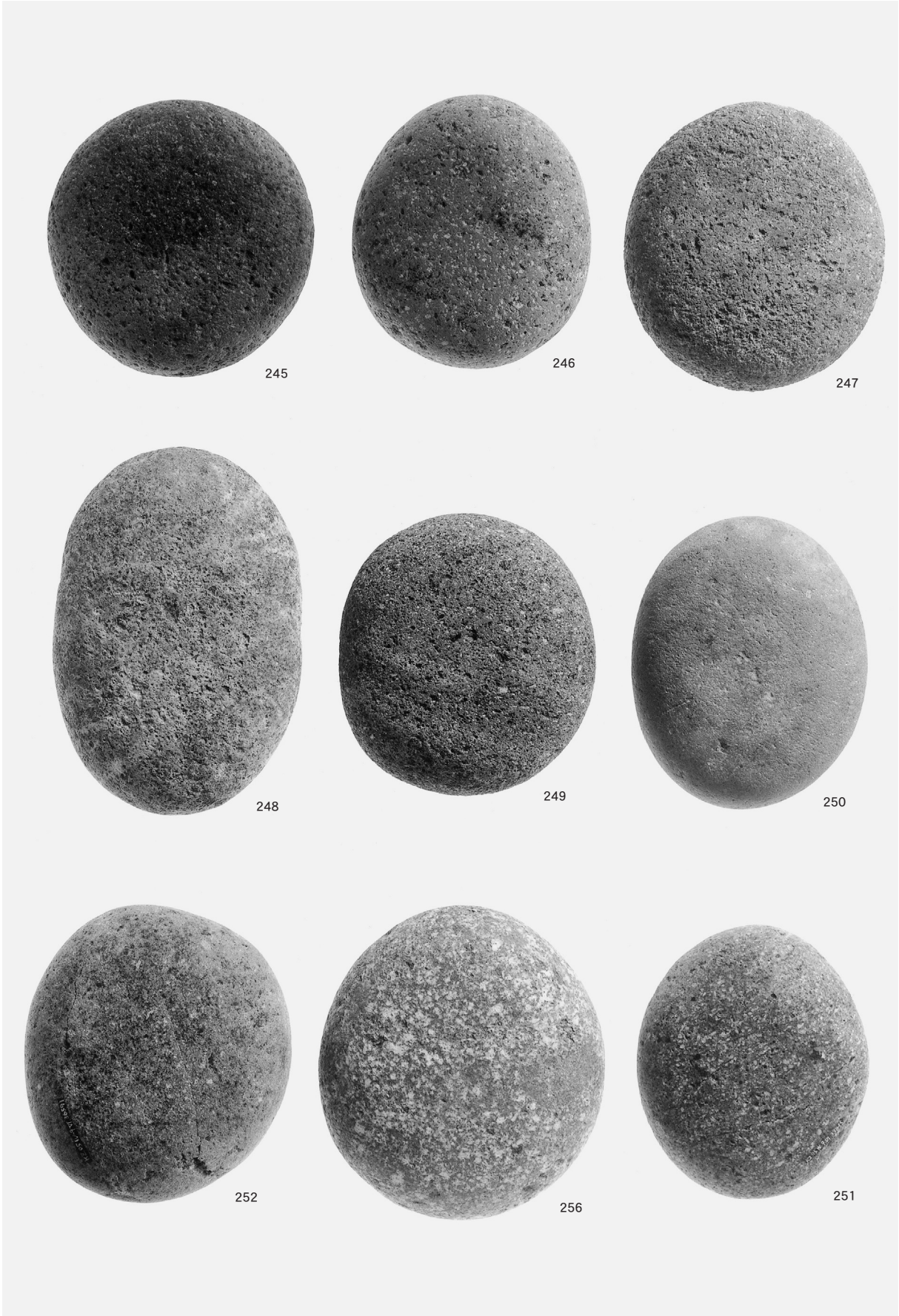


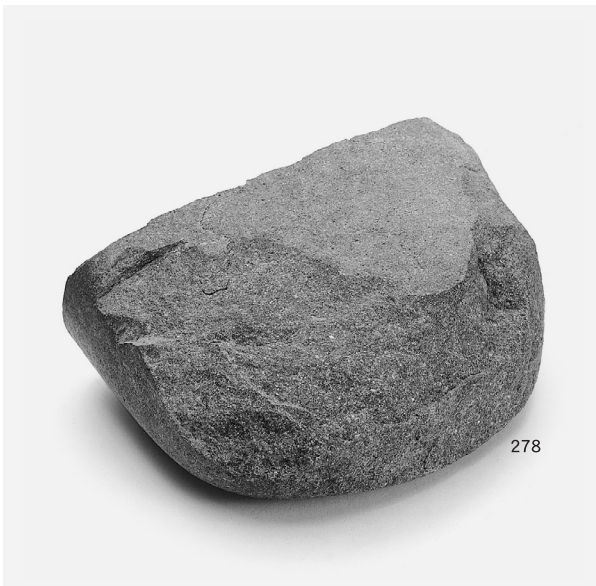
縄文時代前期の石器(10)



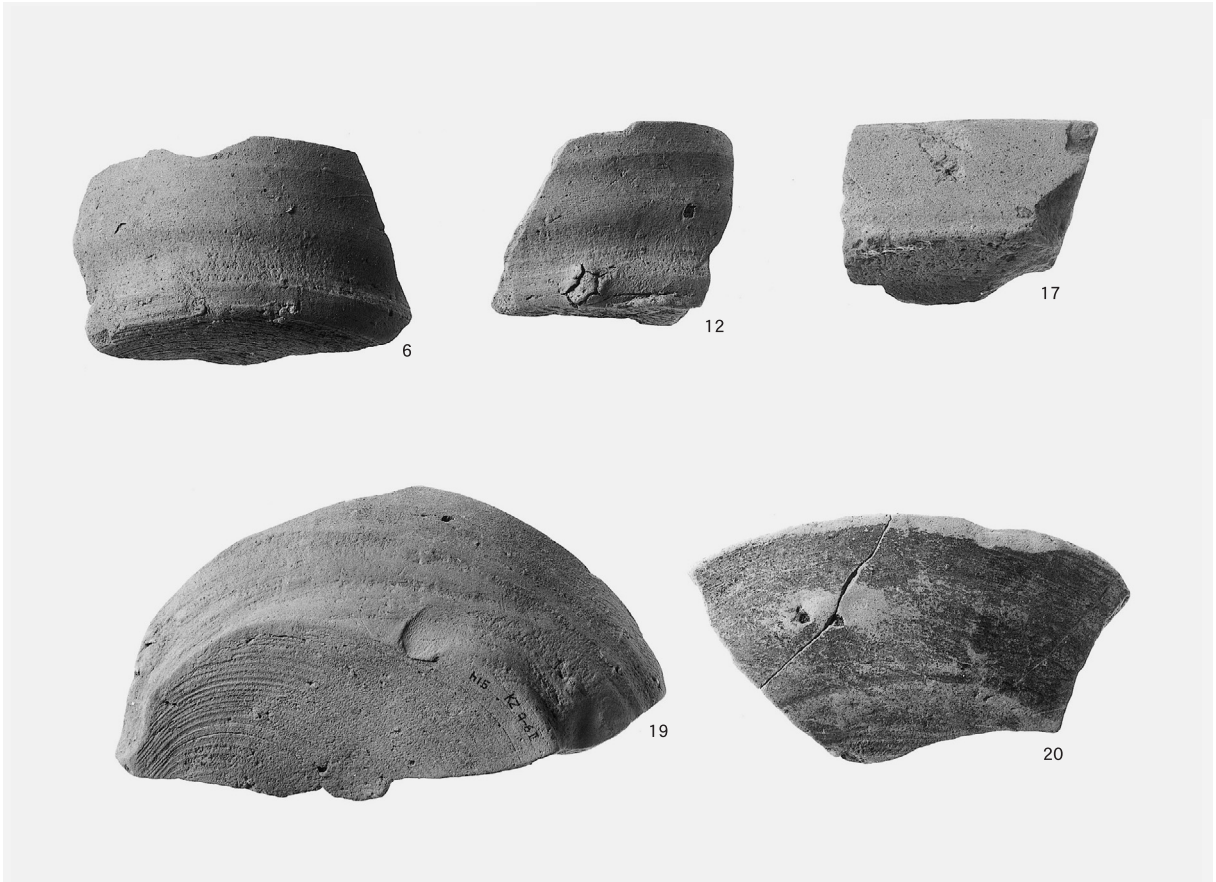
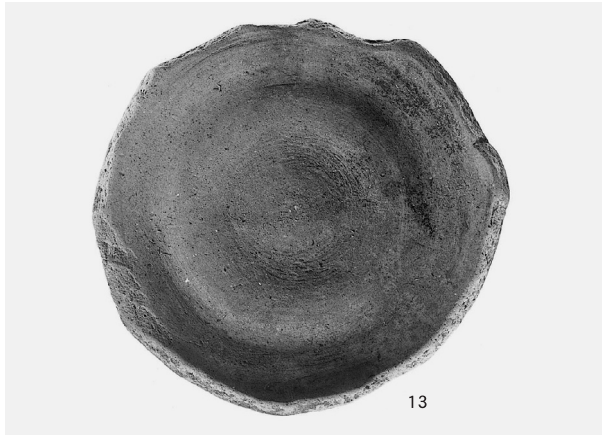
縄文時代前期の石器(1)



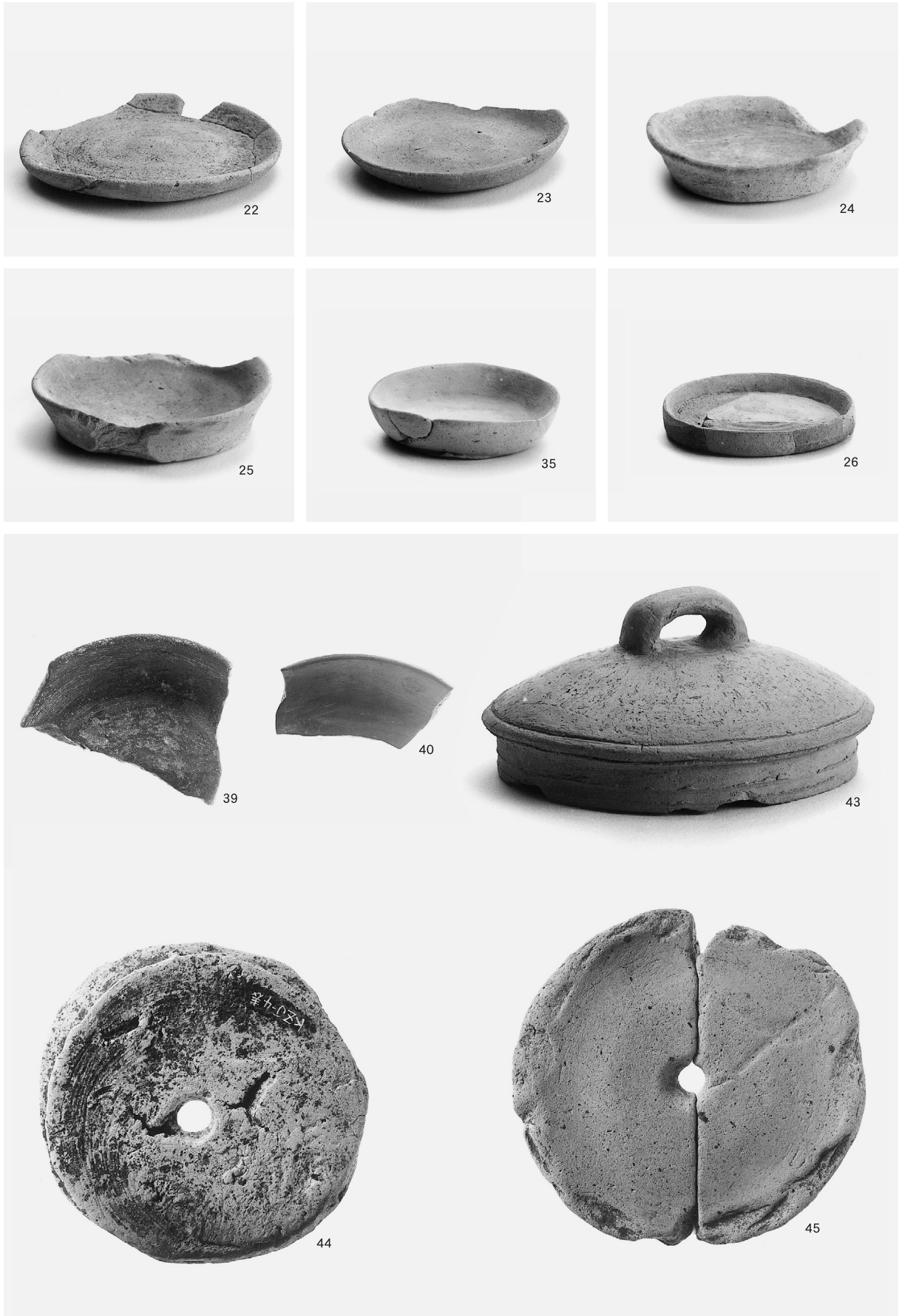
縄文時代前期の石器(12)



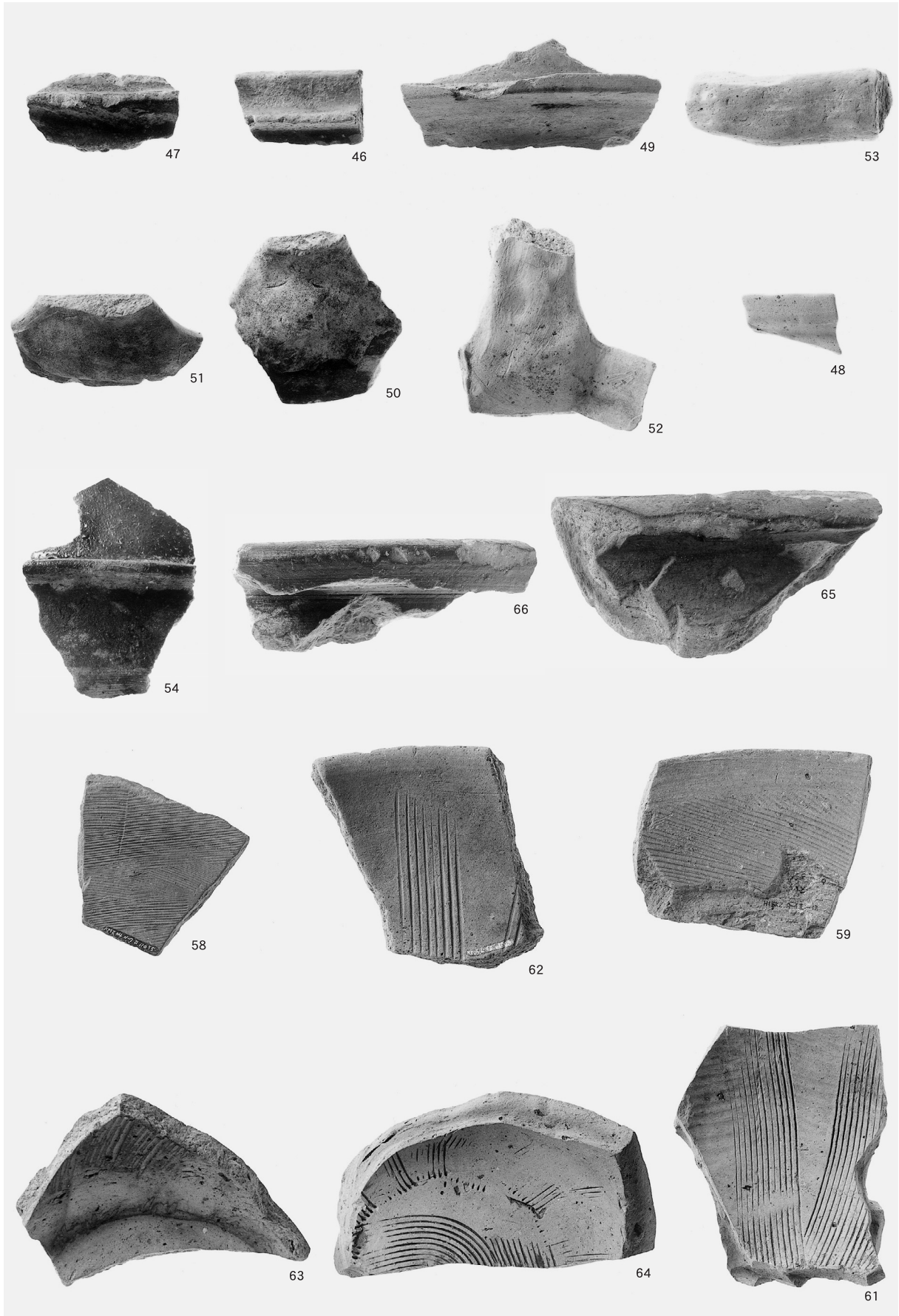
縄文時代前期の石器(13)



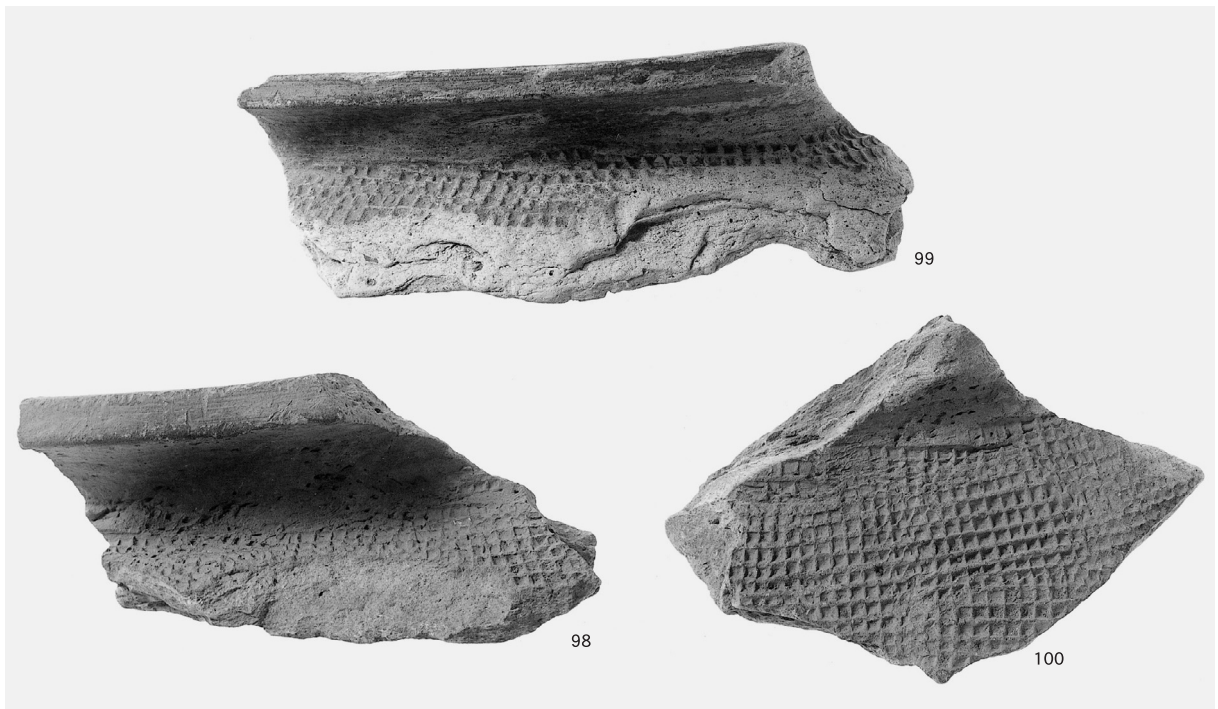
中近世の遺物(1)



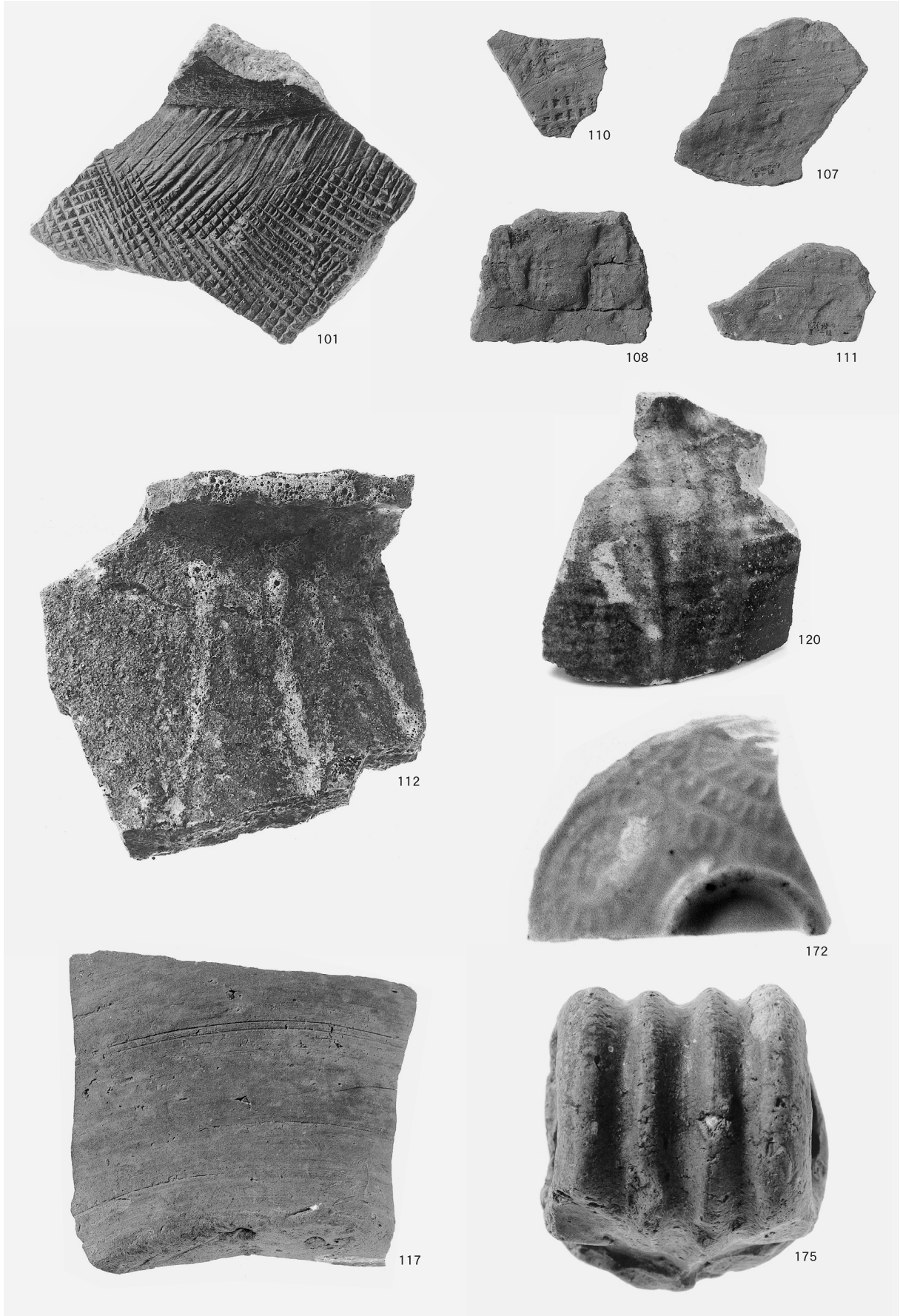
中近世の遺物(2)



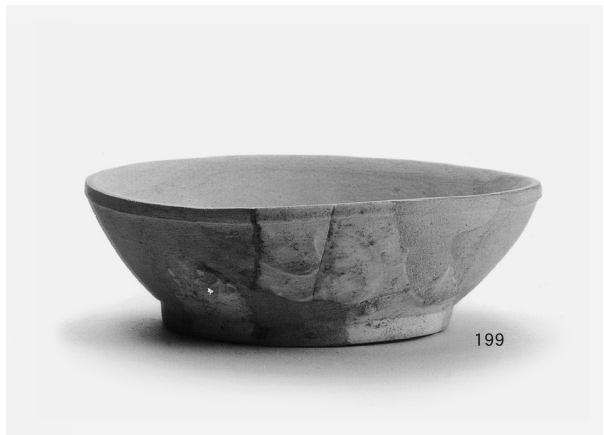
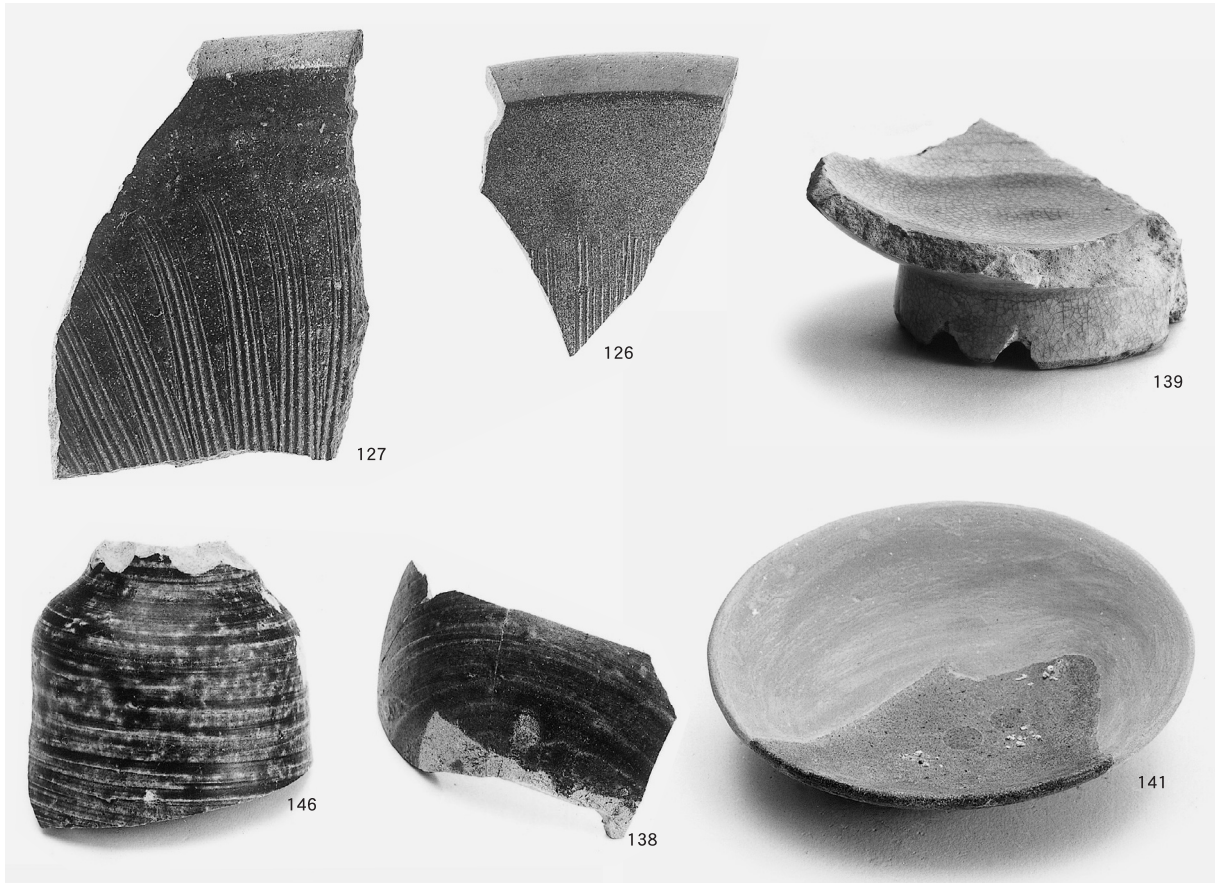
中近世の遺物(3)



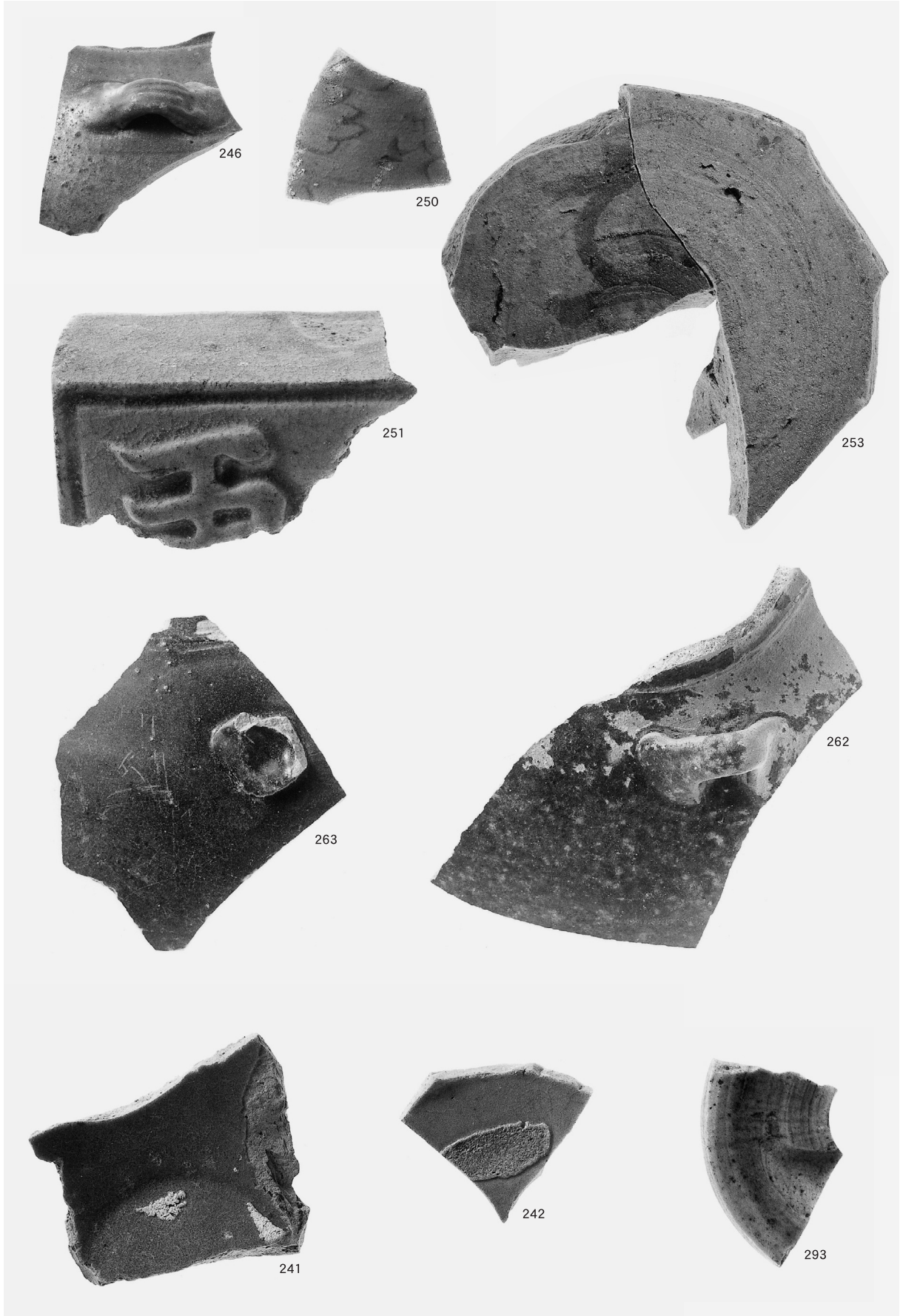
中近世の遺物(4)



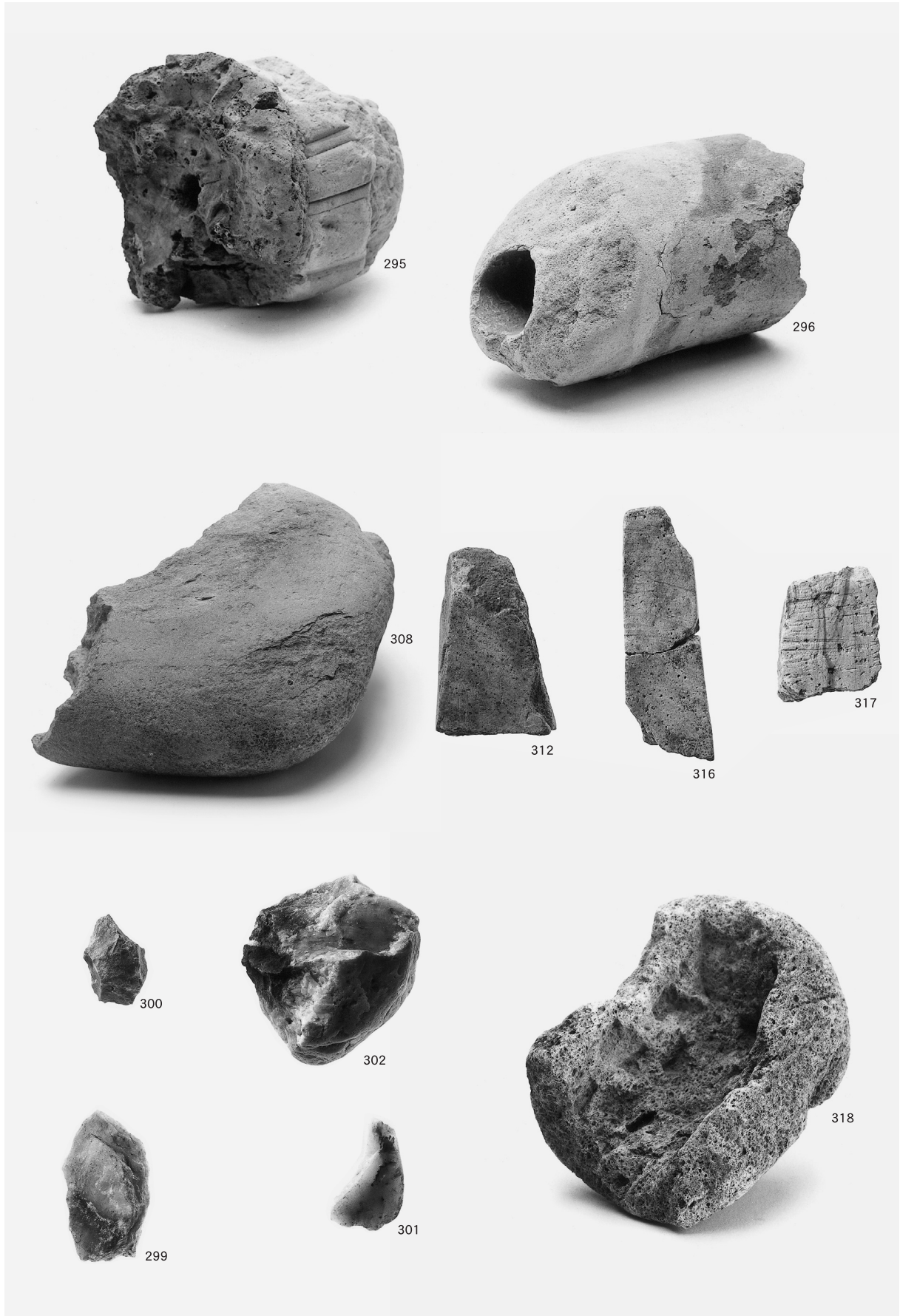
中近世の遺物(5)



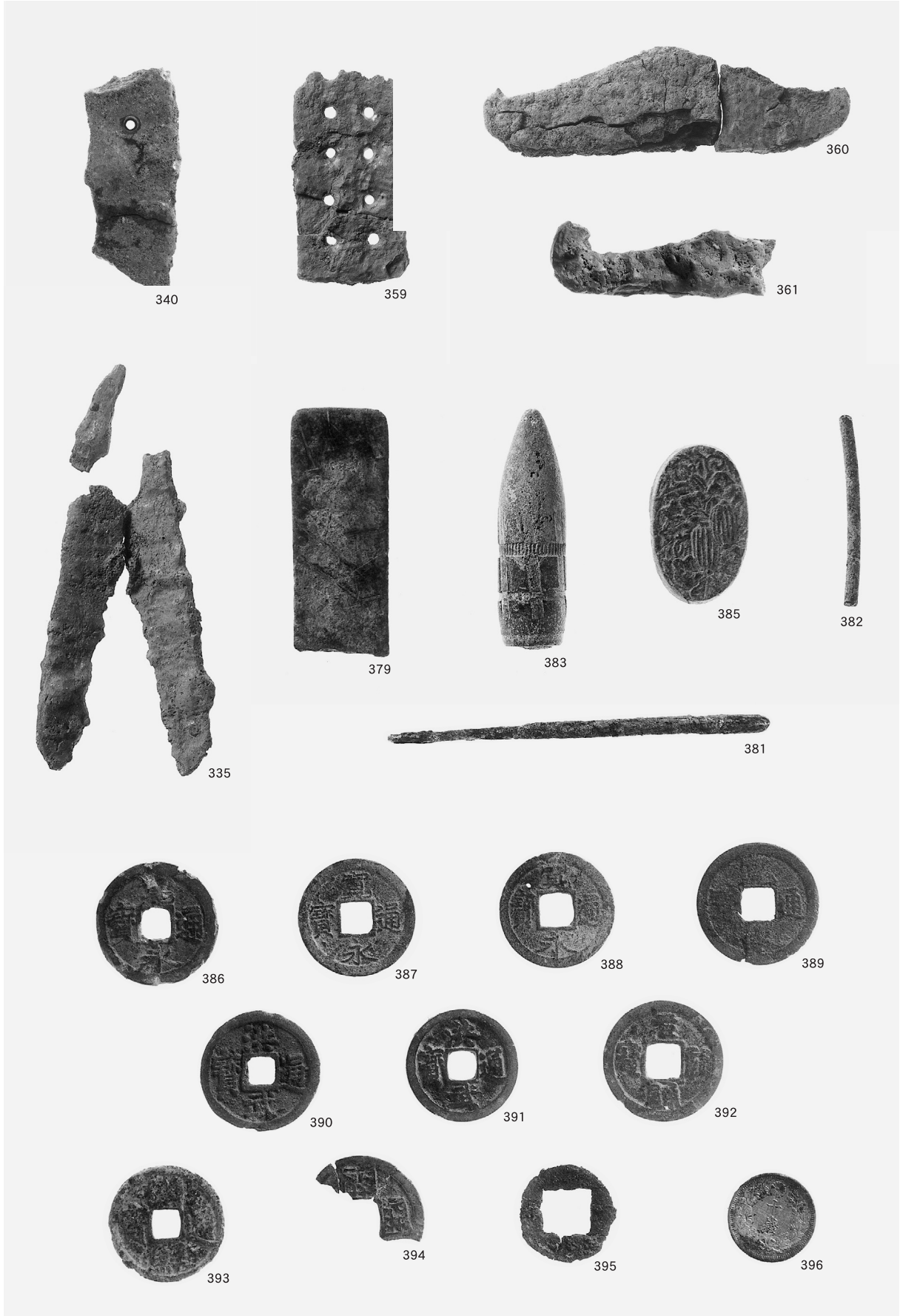
中近世の遺物(6)



中近世の遺物(7)



中近世の遺物(8)



中近世の遺物(9)

あ と が き

今回で、本事業により発掘調査された遺跡の報告書も4冊目になる。上水流遺跡に関しては3冊目になり、縄文時代前期末から中期前半編を残すのみとなった。報告書をまとめればまとめるほどに、遺跡が如何に多くの情報を有しているかがわかる。本来はまだまだ多くの情報があったに違いない。長い年月によって失われたもの、あるいは調査中や整理作業中に見落としてしまったものもあるだろう。遺跡の調査に携わるという業務は、調査担当者・報告書担当者の力量が常に問われる世界である。1つの事象に満足することなく精進して行かなくてはならない。

さて、今回は上水流遺跡の中で最も古い時代の報告を含んでいる。これまでの報告が、幾つかの時代や時期を含んでいる層を対象として報告であったが、今回の6層は、ほぼ曽畑式土器単層期といってよい状況であった。ここ数年の調査報告で単層期の報告はなかなか見られない。このため、該期の文化解明に大きな手掛かりを与えることになるであろう。だが、それに耐えうる内容だろうか不安は尽きない。

いずれにせよ、発掘調査から報告書作成に至るまで多くの方々の協力でここにたどり着くことが出来た。末筆ながら名前を記して感謝したい。

報告書作成スタッフ・指導協力者等(H20年度・順不同)

有村貴子 池田真弓 市園厚子 石坂きくえ
海老原弘子 小田原美保 柏木節子 加藤明子
川野高子 小園久美子 木島恵美 小中由美子
細田保子 下入佐正子 末川章吾 田實美穂 垂門加世
鶴みつ子 永井絹子 長澤みどり 西清子 西川明美
福留良映 藤田みどり 別府祐子 松下奈津美
宮坂多美子 宮原紀代 森山優子 山下貴子
吉松みち子 池田由美子 上別府理香 丸田幸子
石原公子 植山ひろみ 乙幡佳子 門口由美
川俣真由美 隈元優子 諏訪園万里子 郷田千秋
高野広子 高見昇子 田中美佐枝 田ノ上輝美

徳重貴子 中村直美 西実華 二宮るみ 林明子
真野さゆり 和田真祈 坂田かおり 島元喜久美
永野愛子 坂元真由美 半下石あけ美
岩永勇亮 岩元康成 栗畑光博 森雄二 福園美由紀
栗林文夫 峰岸純夫 佐藤亜聖 渡辺芳郎 八賀晋
森田稔 森内秀造 岡田章一 池田榮史 上田耕
佐藤真人 新里貴之 新里亮人 関一之 所崎平
永濱功治 永山修一 新田栄治 橋口拓也 橋口亘
堀田孝弘 林匡 韓盛旭 東和幸 廣栄次 川口雅之
本田道輝 前迫亮一 馬籠亮道 松田朝由 森脇広
森幸一郎 宮下貴浩 桃崎祐輔 柳原敏昭 抜水茂樹
森村健一 三辻利一 坂元恒太



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（136）
中小河川改修事業（万之瀬川）伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（IV）

上水流遺跡3

発行日 平成21年3月

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899 - 4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
T E L (0995) 48 - 5811

印刷所 株式会社あすなろ印刷
〒899 - 0041 鹿児島市城西2 - 2 - 36
T E L (099) 214 - 3757

